

商・関根ゼミの6人

空き店舗コンペで最優秀賞受賞

「懐かしの学校給食」演出

若者の発想を街の活性化に生かす「商店街空き店舗アイデアコンペ」(川崎市主催)で、商学部・関根孝ゼミの3年次生グループが提案した給食文化を楽しむ「SHOKU2文化」が最優秀賞に輝いた。



▲最優秀賞の6人。左から前列は唐木田、三橋、小黑澤、後列は張、佐藤、稲川のみなさん

コンペを目指し、メンバー(小黑澤翠さん、唐木田更紗さん、張卉さん、佐藤征大さん、稲川隆志さん、三橋友紀子さん)6人が模索したのは、あらゆる世代の老若男女が触れ合う店作り。事前に行った約120人のアンケート調査を基に、どんなアイデアがよいか考えた。

そこでたどり着いたのが、子供たちの健康を支えてきた学校給食だ。コッペパン、鯨の竜田揚げ、脱脂粉乳など昭和30年代の給食メニューを再現。現代の給食や韓国など外国の給食も献立に入れて当時との比較が出来るように工夫した。インテリアは30年代のレトロ感を出すために木造校舎風にし、BGMは童謡を流すことにした。また、関連した勉強会や祭りを開催することで、地域住民の関心を集め、商店街の魅力をアップするよう考えた。

「人間的な触れ合いが少ない現代日本は、いじめなどの深刻な社会問題を抱えている。商店街は本来、人間同士のコミュニケーションが生まれるところ。昭和時代の温かさと触れ合いを、給食を通して“提供”したかった」とは中国人留学生の張さん。「食」と「触」を大切に、タイトル名「SHOKU2文化」は野口道栄ゼミ長(3年)が考案した。

書類選考を突破、6チーム出場の最終選考のプレゼンテーション(11月21日)に備え、ディスカッションを重ねた。本番前の1週間は、ビジュアルを意識したパワーポイント作りの「詰め」に取り組み、ゼミの時間を利用してプレゼンの事前練習も行った。本番では落ちついて発表出来たという。

昨年に続き、連続でゼミ生を空き店舗コンペ入賞に導いた関根教授は「団塊世代には懐かしく、若者世代には新鮮な『給食』をテーマにした発想が良かった。主張とストーリーが分かりやすく、パワーポイントもインパクトがあったことが審査員にアピールしたようだ。商店街の地域社会における役割や活性化策を考える機会になってほしい」と話している。

最終選考には、昨年優秀賞の4年次生チーム(太田黒香織さん、長松紘史さん、寺澤洸将さん)も勝ち残り、「全国の名産を月替わりで紹介する店」を提案した同チームは2年連続の優秀賞となった。

商・神原ゼミの5人

「神奈川産学チャレンジプログラム」で優秀賞

「新しいブライダルフェア」提案

(社)神奈川経済同友会主催の第3回神奈川産学チャレンジプログラムで、商学部・神原理ゼミの山片美幸さん、久保田彩乃さん、上沢春香さん、小島みどりさん、龍田早希さん(いずれも3年次生)が(株)横浜ロイヤルパークホテルの課題「みなとみらい地区のホテルにおける顧客獲得戦略」で優秀賞を受賞したほか、専大から5組が努力賞を受賞した。



▲優秀賞を獲得した神原ゼミの5人

このコンテストは、会員企業が日常の経営課題の中から実践的な研究テーマを提示。学生はビジネスの実際を肌で感じ、学びの成果を学外で発揮し、企業側はアイデアを今後の事業に生かすという、産学連携による人材育成を趣旨として行われているもの。

今回は、21社の26テーマに県内12大学の134チーム(レポート提出115チーム)・466人が取り組み、39チームが受賞した。

山片さんたちは、「ブライダル」に興味をもち、同ホテルを研究課題に選択。インターネットや雑誌からブライダル市場を調査し、仮説を立て、他のホテルとの比較分析やアンケート調査などのフィールドワークを行い、みなとみらい地区という好立地にある同ホテルの魅力をアピールする「新しいブライダルフェア」を提案した。

「雨の中でのアンケート調査では、はじめは声をかけることが出来ずに苦労しました。論文の締め切り間近には毎晩遅くまで全員でチェック。プレゼン出場が決まってからは、先生や昨年出場した先輩の前で発表し、『内容はまとまっているが、表現方法がダメ』と指摘され、ボイスレコーダーを使って練習を重ねました」と代表の山片さん。

「プレゼン当日も海に向かって練習してから参加しました。順番が最初で緊張しましたが、『努力を積み重ねてきたのだから大丈夫』と言い聞かせ、成果を発揮出来たと思います」と振り返る。

コンテスト参加を通じて「責任をもってそれぞれの役割を果たすこと、こだわりのあるところは決して妥協しないこと、やれば出来ることを学んだ」というメンバーは、12月13日に横浜市のかながわ労働プラザで行われた表彰式で、自信あふれる、にこやかな表情を見せた＝写真上。

努力賞受賞者



左:河野正寛さん 右:新井ゼミ



左:石川ゼミ 右:太田ゼミ



神原ゼミ

努力賞受賞者紹介

【 】内は企業名と研究テーマ

★経営4・河野正寛さん

【アルプス技研／インターネットを活用した社員間コミュニケーション促進の提案】

ゼミの指導教授である植竹朋文先生に勧められ、参加しました。内定者が社員にインタビューを行い、それをイントラネット上に載せ、社員同士が自分たちがどういう存在であるかを確認することを提案。「プレゼンは最高だったよ」と社員の方に評価していただき、自信になりました。

★経営・新井範子ゼミ

【CFSコーポレーション／競争激化の市場環境化におけるHACドラッグの差異化戦略】

店舗数が多く、低価格競争が続くドラッグストアは、女性客中心の品揃えが多いと感じていた
ので、男性客をメインとした「メンズドラッグストア」を提案しました(代表・渡辺優子さん＝4年
次)。

★商・石川和男ゼミ

【横浜ロイヤルパークホテル／みなとみらい地区のホテルにおける顧客獲得戦略】

宿泊したお子さんに「20歳の自分に向けた手紙—どんな結婚式がしたいか」などを書いてもら
い、その夢がかなうようなブライダルプランを提案。「子ども」をターゲットにした点が評価された
のでは、と思っています。プレゼンの準備期間が短く大変でしたが、やるべきことをやったとい
う達成感を強く感じています(同・仁野優さん＝3年次)。

★商・太田和博ゼミ

【江ノ島電鉄／江ノ島・鎌倉へ旅客誘致のための活性化策】

顧客満足度を上げることをテーマに設定。沿線住民にアンケートをとり、接客サービスの向
上、社員の働きがいの向上のための制度、広報戦略を提案しました。「交通活動及び交通政
策」がゼミのテーマなので日ごろの研究成果を生かそうと取り組み、結束も強まりました(同・植
木直子さん＝3年次)。

★商・神原理ゼミ

【関口商事／相模原市内における食品スーパーを選ぶ消費者心理の解析】

集客率アップのため、惣菜コーナーのリニューアル(出来上がり時間パネルの設置、地域特性
を生かした企画など)をプレゼンしました。身近にある題材のため、新たなイベントを考えるの
が難しかったですが、先輩や先生のアドバイスで形になりました(同・竹澤美希さん＝3年次)。

インターンシップ発表会

経済学部 — 授業以外の貴重な体験

協力企業関係者も出席

経済学部では、12月9日、生田キャンパスで学外特別研修(インターンシップ)発表会を行った=写真。

チーフ担当教員の原田博夫教授から経過報告と挨拶があり、続いて28の企業などで研修を行った34人がI・II・IIIセッションに分かれ、体験談をパワーポイントでプレゼンテーションした。

各セッションの終わりには協力企業の関係者からユーモアを交えたコメントが紹介され、学生たちは授業以外の貴重な学習成果を確かめた。

原田教授は「学生の成長がうかがえてうれしい。これを今後の勉学の糧にしてほしい」と語った。



経営学部 — 「組織の魅力」を実感

企業のトータルな業務の把握と、経営のダイナミズムを体験することを目的とした、経営学部の企業研修(インターンシップ)発表会が、12月5日、生田キャンパスで行われた=写真。

今年度は6人の教員が担当し、18人の学生が13の企業、公共機関で体験。「学んでいる理論や知識が社会でどう生かされているか確認する」「職業観の育成」「企業におけるリーダーシップとは」などを目的に掲げた学生たちは、「組織の魅力を知り、職業観が養われた」「知識、技術よりもコミュニケーション能力の重要性を実感した」と研修成果を語った。

発表後、受け入れ先の担当者から、学生たちの成長を評価するコメントが送られた。

